

平成 30 年度 第 2 回磐田市立図書館協議会会議録

□日 時 平成 31 年 1 月 23 日（水） 午後 3 時から午後 4 時 45 分まで

□場 所 磐田市立中央図書館 2 階会議室

□出席者 委員：飯田真也、鈴木由美、田中さゆり、平野富美子、
山中光枝、青島公悦、芥川栄人（以上敬称略）

事務局等：

村松啓至教育長

秋野雅彦教育部長

中央図書館：伊藤八重子館長、鈴木法之主査、山中則明主査、青嶋健太主事

福田図書館：榎本朋久館長 竜洋図書館：佐藤千明館長

学校教育課：田中暁子指導主事

ひと・ほんの庭 にこっと：村川実加館長補佐、岡本由紀子主幹

□傍聴人 0 名

□内 容 以下のとおり

議題（１）平成 30 年度事業報告について

1. 平成 30 年 4 月～11 月の事業報告について（以下、事務局）

- ・個人利用状況について、4 館の合計は、入館者数、利用者数、貸出数ともに、昨年度の同時期と比較して増加している。竜洋図書館については、11 月の空調設備工事による 11 日間の臨時休館により、昨年度よりも合計数値は減少している。
- ・資料別貸出について、児童書の貸出数の 4 館合計は、にこっとの開館により、2,876 冊減少した。一方にこっとでは、絵本を含めた児童書が大変多く貸出されている。
- ・資料の所蔵状況について、今年度各図書館で閉架の資料を中心に見直しを行い、汚損破損・不要資料についての除籍を進めていることにより、所蔵数は減少となっている。
- ・情報提供について、ホームページのアクセス件数が伸びている。
- ・児童サービス、視覚障害者サービスについて、ボランティアの協力を得て事業を実施している。おたのしみ会を企画、実施していただいている「にんぎょうの会」の皆様にも、磐田市から感謝状が贈呈された。また、11 月に行われた、ららぽーと磐田での「子育て応援 おはなし会」でも 4 団体のボランティアの多大なご協力をいただいた。2 日間で 266 名と大勢の参加があった。各館においても、おはなし会、おたのしみ会、小学生へのガイダンス等の事業を行っている。
- ・電子書籍サービスについては、今年度利用拡大に向けた取り組みを行ったため後ほど詳述する。

2. ひと・ほんの庭 にこっと開館後の状況について（以下、事務局）

(1) 利用状況（平成 30 年 12 月末現在、開館日数 116 日）

- 入館者数 596 人／日（累計 69,148 人）
- 利用者数 187 人／日
- 貸出点数 904 点／日（累計 104,830 点）
- 新規登録者数 753 人（内 26 人隣接）
- 団体利用 51 団体 貸出点数 1,289 点（※平成 30 年 11 月末現在）

来館者数、貸出点数について、豊田図書館の時と比較すると、1日あたりの来館者は約150人、貸出点数は約200点の増加である。新規登録者は、小学生以下の児童とその保護者30代が多い。

団体利用は、旧豊田図書館の時から引き続き利用していただいている団体が多く、51団体に対し、1,289点の貸出を行った。

(2) 資料の所蔵状況（平成30年11月末現在）

- 資料別受入 児童書 3,594冊（58%）／一般書 2,183冊（35%）
- 資料別貸出割合 児童書 57,602冊（68%）／一般書 23,502冊（28%）

※100%に満たない分については、雑誌や郷土資料等

貸出状況から、子育て世代によく利用していただいているように見受けられる。

(3) 各種相談業務（平成30年12月末現在）

- ① 子育て相談（育児・健康相談等、随時） 78件
- ② にこっとハローワーク（毎週水・金曜 午後1時30分～4時30分） 144件
- ③ 入園募集案内 39件

保健師、保育士等の専門職の配置や、ハローワーク等関係機関との連携によって、子育て相談や職業相談を展開している。保育士、保健師等の専門職が常駐していることが周知されていないため、周知の仕方を工夫していきたい。

ハローワークによる出張職業相談では、実際に就労につながったケースが8件あった。相談者の来館状況から見ても、需要が高いものと考えられる。

(4) 館内サービスの企画・講座等の開催状況

- ① 定例講座
 - ・おはなし会
 - ・天体観測
- ② 連続講座
 - ・25DAY
 - ・プレママおはなし会
 - ・心理士による巡回相談
 - ・出産体験講座
 - ・手話講座
 - ・父親対象育児講座「パパ、ハンパないね」
 - 等
- ③ 企画講座
 - ・ボランティアによるおはなし会
 - ・ぬいぐるみのおとまり会
 - ・磐田市出身者による読み語り
 - ・昆虫教室
 - ・工作会
 - ・健康講座「いわたっ子健幸マイスター育成講座」
 - [今後の予定]・わらべうた講座
 - ・講演会
 - ・ワークショップ
- ④ ヤギ飼育 平成30年10月30日～（名前募集、発表）

(5) その他事業

- ① 中学生スタートアップ応援事業（平成30年度の受付は平成31年2月末まで）
- ② 視察の受け入れ ・県内26件565人 ・県外5件59人

各企画の際には、絵本の読み聞かせを行っており、絵本と企画のつながりを効果的に持たせている。

3. 電子書籍サービスの取組状況について（以下、事務局）

- ・電子書籍サービスは、図書館が独自でデジタル化した地域資料と出版社からデータを購入し

ている商用コンテンツの2種類を提供している。

- ・磐田市立図書館の商用コンテンツの提供は、平成29年8月から開始されており、県内初の試みである。平成29年度の実績では、133タイトルの掲載、168回の貸出となっている。平成30年度は、98タイトルを追加し、11月末現在413回の貸出である。利用は増加傾向にあるが、さらなる利用拡大のため、次の3つの取り組みを行った。

① 選書の見直し

貸出状況を分析し、よく利用される資料の傾向から、選書の見直しを行った。

② PR強化

図書館だよりで新着図書を紹介し、ホームページの電子図書館トップページも明るい雰囲気リニューアルした。また、講座やイベント等で、デモンストレーションを行った。

(9月 歴史文書館講演会 11月 静岡産業大学学園祭 12月 図書館文学講座)

③ アンケートの実施

10月末から11月まで、延べ579人から回答を得た。アンケートの結果から、電子書籍の貸出について「知らなかった」と回答した人が422名(76.3%)であった。また、利用してみたいジャンルでは、回答数が多い順に「旅行関係」、「料理」、「健康に関するもの」となった。

- ・事務局より、実際の電子書籍サービスのデモンストレーションを実施し、図書館だより1月号の「電子図書館より1冊」を例に、電子図書館利用方法を説明した。

〈質疑・意見〉

○にこっとで、各種相談業務中に託児等は行っているか。

(事務局)利用者から特に希望はなく、行っていない。

○職業相談で、働きたい母親は来るか。

(事務局)毎週水曜の午後1時30分から4時30分まで行っているが、途切れなく相談に来ていただいている状況である。相談員が1人で対応しているため、相談できる件数に限りがある。

○にこっとのPRについて、母子手帳の交付時等にPRは行っているのか。

(事務局)にこっとのガイドブックを母子手帳交付時に全ての妊婦に配布している。相談が受けられるということを案内するページを設けている。

○保育園の入園募集案内をしているとのことだが、幼稚園やこども園の募集案内もしているのか。

(事務局)幼稚園は直接園に申込みをするが、保育園は入園の審査を市で行っているため、にこっとでは主に保育園の案内をしている。

○にこっとに視察へ来た方々の感想はどのようなものであったか。

(事務局)保育士や保健師が常駐している環境であり、相談機能を備えているという点が特に良いという感想をいただいている。

○学校図書館は情報センターとしての役割という点に力をいれて取り組んでいる。国語の平行読書だけでなく、算数の単位についての本等も紹介している。

○学校の子どもたちから図書館の話題や、にこっと、スタートアップ事業に関する話題が出る等、図書館に親しんでいる様子が伺える。

○電子書籍の旅行ガイドブックは更新をしているのか。

(事務局) 2年毎の更新となっている。地域に関しても、利用状況を見ながら検討していく。
○電子書籍サービスについては、あまり知らなかったもので、今後利用してみたい。

議題(2) その他

1. 県図書館大会の参加報告(以下、当日参加者)

(1) 第1分科会 「大切な本、直しませんか?～達人に聞く本の修理と手当て～」

和紙や澱粉のり等、古くからある用具がとても優れていることがわかった。実技もあるとよかった。

(2) 第2分科会 「いま、図書館に求められる高齢者サービスを考える～地域社会の結びつきとその実践」

名古屋市の図書館で行われている、高齢者向けの音読教室が興味深かった。様々な部署との連携も必要になると思うが、高齢者にもさらに図書館を利用してもらえるよう検討していくと良いのではないかと思った。

(3) 第3分科会 「しあわせを伝える絵本 ～『くまのがっこう』にこめた思い～」

アニメにもなった『くまのがっこう』の作家のあいほら氏による講演で、絵本のときとアニメのときの違いや、アニメ化は、作家だけではなく、多くのスタッフの力によって作られていくものであることがわかった。

(4) 第4分科会 「絵本の記憶、子どもの気持ち～大学生のレポートより～」

大人と子どもでは、絵本に対して抱くイメージが変わるということが印象的であった。子どもが絵本を「体験」しているのに対し、大人は絵本を「鑑賞」しているという特徴があることがわかった。子どもが本の世界を生きているということを認識し、一緒に体験するという意識で読み聞かせをすることで、読み方も変わってくるのではないかと思った。

(5) 第5分科会 「情報センターとしての学校図書館～情報検索の「道しるべ」パスファインダーの基礎を学ぼう～」

パスファインダーとは、あることがらを調べるときに役立つ資料を1枚の紙にわかりやすくまとめたもので、調べる手順や手がかりとなるキーワード、資料が紹介されたものである。学校図書館を活用した授業をより充実させる手段の1つとして、また、子ども達が主体的に情報検索をする力を育てていくためのツールとして、パスファインダーの有効性を意識しながら、磐田市の読書活動がより発展していくよう、研究材料の1つとして今後取り扱っていききたい。

(6) 全体会 対談「地方自治に対する、図書館を核とした政策提言」

図書館の所管についての議論があった。司書等専門家の意見が反映されることを条件に、首長部局の所管でも良いのではないかという意見がある一方で、政治的中立性が失われる懸念も指摘された。

図書館がまちづくりの拠点となり、にぎわい創出の役割を担っていくべきであるということが提案された。読書の場の提供のみではなく、情報発信や情報提供を積極的に行い住民自治に貢献できる姿勢を示すことが重要であるという意見が出たため、磐田市でも取り組んでいるところである。

〈質疑・意見〉

- 全体会で、呉市議会図書館の事例が紹介されたが、学校図書館も、学校司書リーダー制度をさらに活用していけるよう、学校への情報発信、共有をしていきたい。
- 学校司書の配置状況はどうなっているか。
(事務局) 市内 10 学府で、1 人 1 学府の担当となっている。1 つの学府内を巡回しているため、1 週間に 1 日程度という状況である。
- 学校司書リーダーの管轄は学校教育課になるのか。図書館との連携を強くすべきではないか。
(事務局) 学校司書リーダーの管轄は学校教育課である。学校から学校教育課に要請があれば、中央図書館と連携していく体制ができている。
- 学校司書リーダーについて、学校現場でさまざまな仕掛けをしてきていて、大変役立っている。高学年の読書離れ対策で「読書カフェ」という、高学年の希望図書を募って購入する図書を投票で決め、購入直後は高学年優先で貸出をするものを企画してくれた。高学年だけでなく、全校にも拡大して 2 回目も開催した。また、本の福袋企画も好評であった。
- 国語の時間等で平行読書をする際、中央図書館に本の手配をお願いすると大量に用意してくれる等、図書館と連携している。

2. 地区図書館の特色づくりの状況報告 (以下、事務局)

① 福田図書館

高齢の方の利用が多いため、時代小説や大活字本の充実を特色とし、整備した。併せて子育て関係の本を、おはなしの部屋付近に配置換えし、一体的に利用できるようにした。さらに、渚の交流館と連携し、海にちなんだ資料の特集コーナーを常設するようにした。渚の交流館には、福田図書館の紹介コーナーを設けてもらっている。

② 竜洋図書館

音楽に馴染みのある地域であることから、音楽関係の資料が充実している。特に楽譜は、ピアノや管弦楽器、声楽等約 3,000 冊を所蔵している。楽譜をカウンター前に移設し、広く見やすい書棚づくりをした。また、幅広いジャンルの CD を約 4,900 点所蔵しているほか、映画・アニメ等の DVD や『三国志』、『火の鳥』等のコミックをそろえている。今後も、楽譜をはじめとする音楽関係資料や CD 等の収集に努めていく。

③ 豊岡図書館

暮らしに役立つ旅行ガイドや健康、料理等の資料を 1 階に集約している。また、1 階にゆったり読書を楽しむことができるコーナーをつくる予定である。